

## 連載

## ＝褥瘡（じょくそう）＝

## ～人生観が変わる？～

三戸呂 克美

まず始めに、今回の緊急入院に関しまして会員のみなさん、ご支援、ご協力いただいている多くの方にご心配とご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。そして、昨年 11 月に無事退院したことをご報告いたします。

入院から退院までのいきさつを簡単に述べますと、平成 26 年 3 月 4 日お尻にできていたキズが悪化、神戸市須磨区にある S 病院に緊急入院。同年 4 月 たつの市にある県立リハビリテーション西播磨病院に転院。1 年半の入院生活を終え平成 27 年 8 月 17 日退院いたしました。しかし、完治したキズが再発、県立リハビリテーション中央病院に再入院となり治療。同年 11 月 9 日無事退院いたしました。

頸髄を損傷して 36 年間、自分なりに気をつけていた身体のケアでしたが、今回のキズでそれまでつくってきた生活が音を立てて崩れて行きました。入院中は天井を見ての毎日。何でこんなことになったのか、と自問する声が頭から離れない。そんなショックから立ち直れたのも、多くの友人、知人に励ましのお言葉をいただき、直接的、間接的にご支援いただいたことは本当にありがたく感謝の気持ちでいっぱいです。また「自分一人ではない」、ということはこの度ほど強く感じたことはありません。

おりしも、入院 3 カ月後には兵庫頸損連絡会主催の全国総会を控えていたことと重なり、多くの皆さんにご心配、ご迷惑をおかけすることになりました。全国総会も若い会員の皆さんが力を合わせて頑張っていたおかげで成功裏に終えたことを聞き安堵して治療に専念できたとありがたく思っています。今年は再起の年にし、もう一度自信を取り戻せるよう頑張りたいと思います。

さて、頸髄を損傷すると四肢・体幹マヒの一次障害があり、二次障害としてあげられるのが排泄障害と褥瘡です。頸髄損傷者ならキズの大小にかかわらず一度は経験されたと思います。と、いうことで次号から「褥瘡」に関して自分の経験を交えながら人生観をも変えるほどの褥瘡の怖さとどう付き合うかについて寄稿したいと思います。

*to be continued*